



議第1238号

横浜市都市計画マスタープラン

旭区プラン改定

# ■横浜市都市計画マスタープランについて

「都市計画マスタープラン」

市町村の都市計画に関する基本的な方針(都市計画法第18条の2)

## 横浜市都市計画 マスタープラン

全体構想



地域別構想

区プラン

地区プラン

全体構想（平成24年度改定）

横浜市の市域全体について、都市計画の基本的な方向を示す

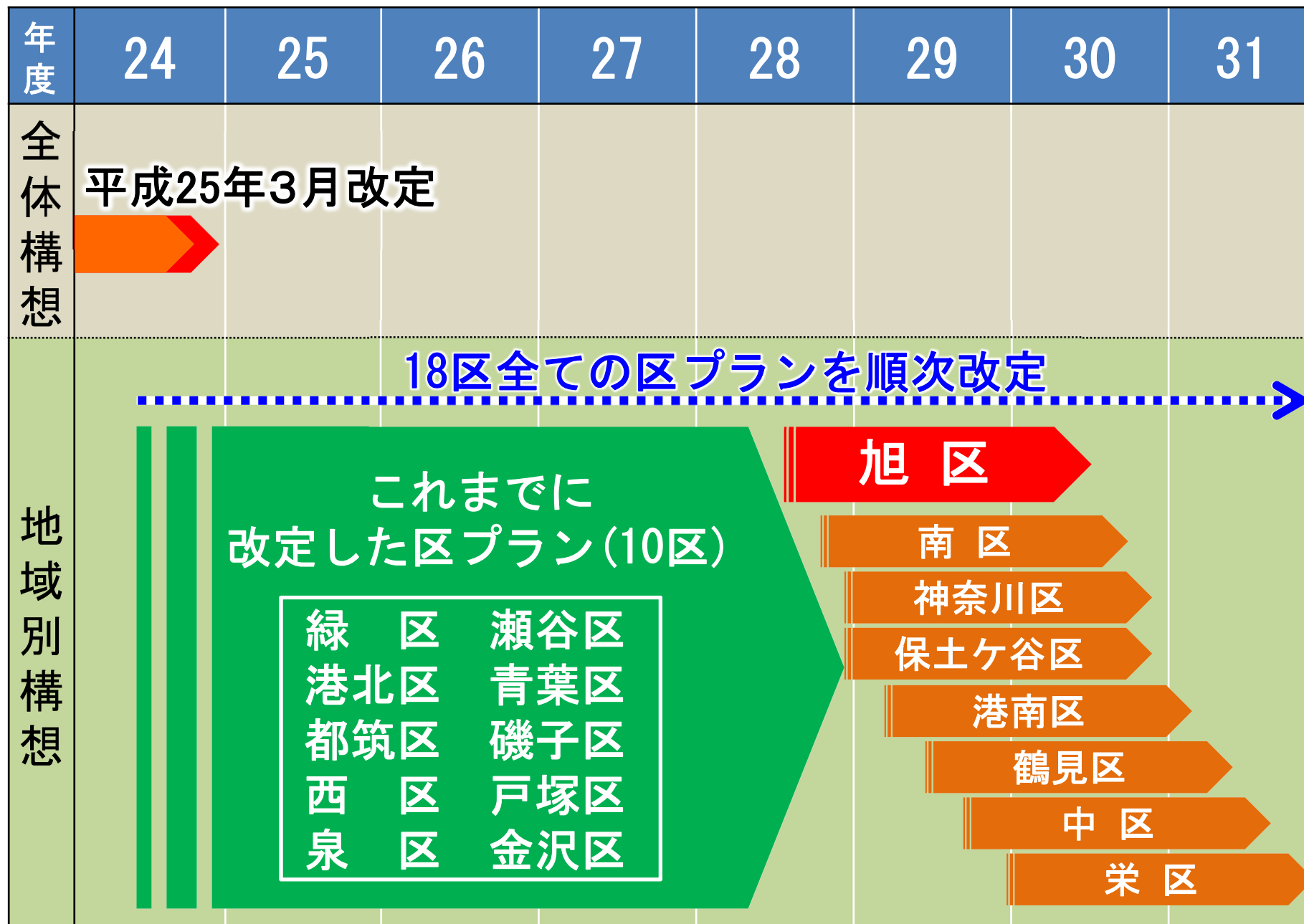
地域別構想

区プラン（平成31年度までに順次改定）  
市民に近い行政単位である区の将来像等  
を示すとともに、市民との協働でまちづ  
くりを進めていくうえでの基本的方針を  
示す

地区プラン

具体的なまちづくりを進めるに当たり、  
より詳細な都市計画の方針を示す必要が  
ある地区において、地区の実状に応じて  
定める

# 横浜市都市計画マスタープランの改定状況



# ■旭区プラン改定の進め方

平成26年度～

平成29年度

平成30年度

まちづくりに関する検討

素案作成

素案公表

説明会

平成29年 5月12、13日

改定素案意見募集

平成29年 4月3日  
～ 6月30日

平成29年  
6月29日

横浜市都市計画審議会報告

原案の作成

原案公表

原案意見募集

12件

平成29年11月21日  
～12月4日

改定案確定

本日

横浜市都市計画審議会付議

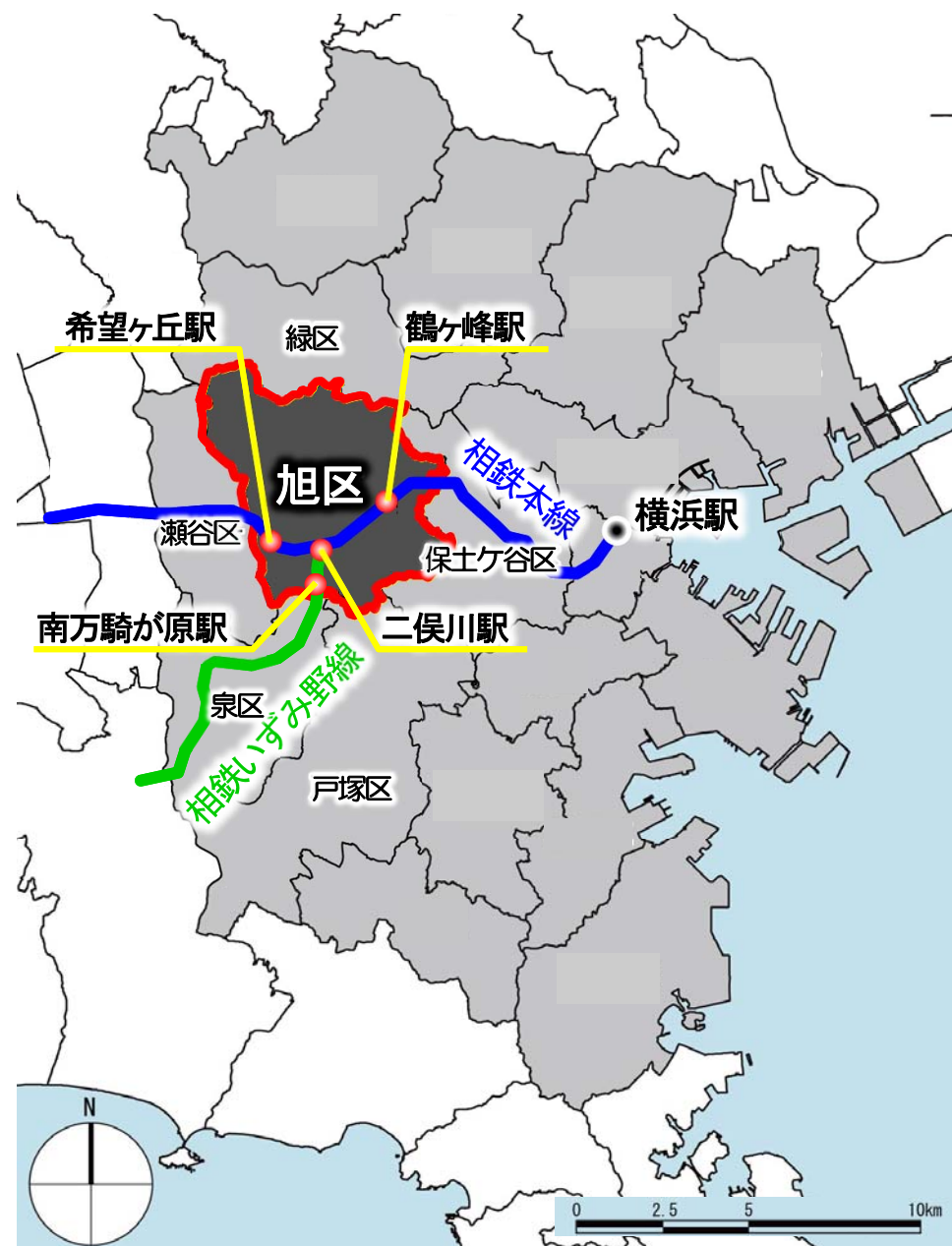
改定プラン確定・告示

# ■位置

○横浜市西部に位置

○区域面積: 32.78 km<sup>2</sup>

○東西に相鉄本線  
南部に相鉄いずみ野線

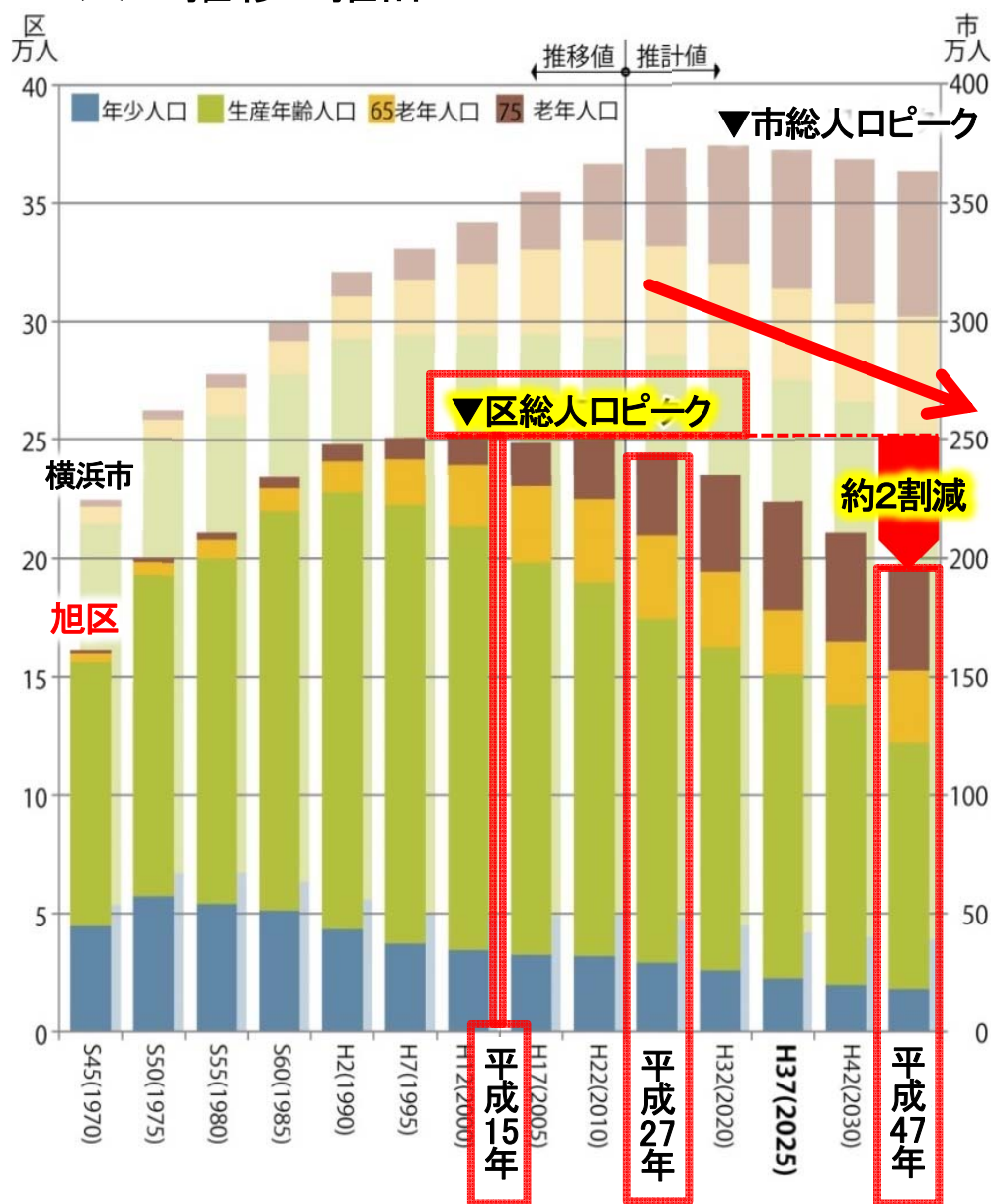


# ■現状 1 (人口 1)

人口は平成15年にピークを迎え、その後は横ばいに推移。

平成27年以降は人口減少が顕著となり、平成47年にはピーク時の約2割の人口減が予測されている。

## 人口推移と推計



## ■現状 2 (人口 2)

高齢者数は全18区で一番多く、平成37年に団塊の世代が75歳以上となる、2025年問題が喫緊の課題。

高齢者数上位3区の高齢者数・高齢化率

(平成28年1月1日時点)

区名	総人口	高齢者数(65歳以上)	高齢化率
横浜市	3,724,695 人	870,773 人	23.4 %
<b>旭区</b>	247,070 人	<b>69,871 人</b>	<b>28.3 %</b>
戸塚区	275,282 人	66,670 人	24.2 %
港北区	344,318 人	65,060 人	18.9 %

旭区の高齢者数・高齢化率の予測値

	平成28(2016)年	平成37(2025)年
旭区の総人口	247,070 人	223,991 人
旭区の高齢者数(75歳以上)	34,691 人	<b>46,095 人</b>
旭区の高齢化率	14.0 %	<b>20.6 %</b>

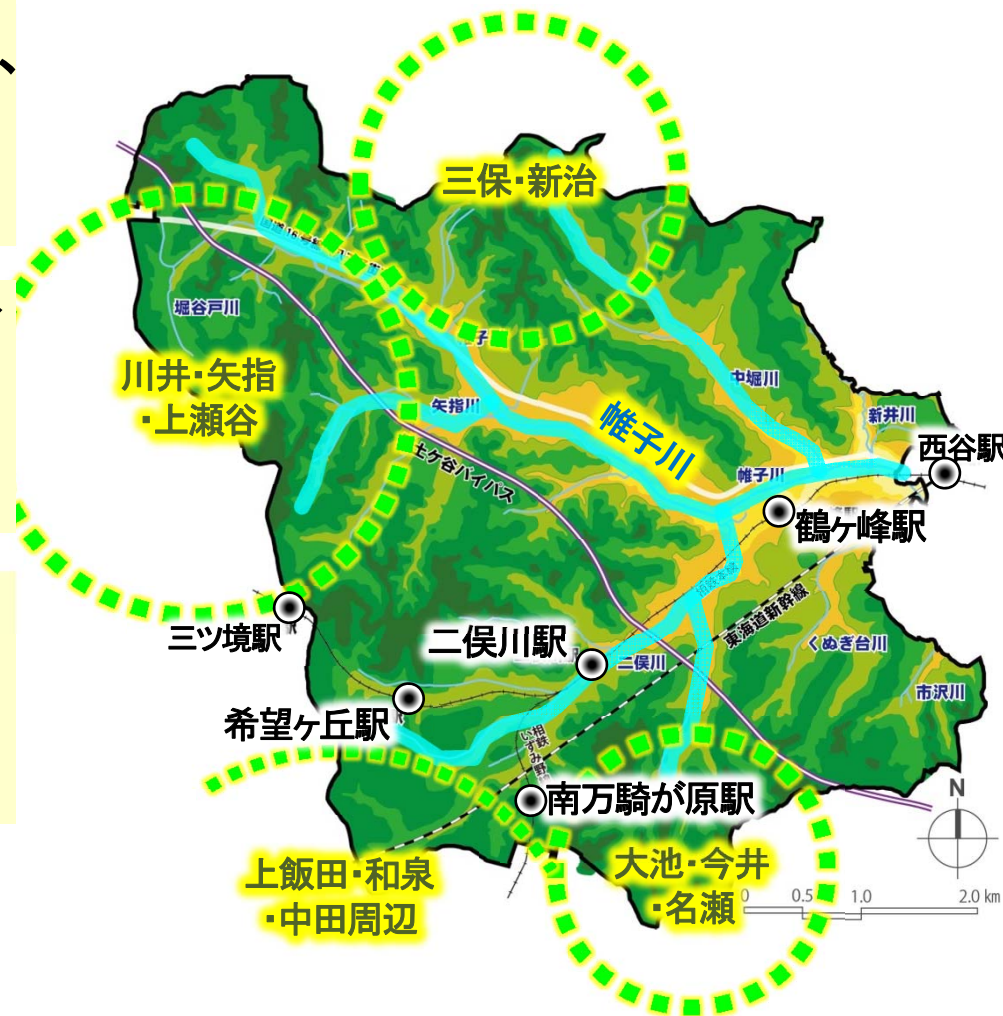


## ■現状 3 (地勢)

帷子川の源流域となっており、帷子川とその支流により起伏の多い複雑な地形が形成。

緑の10大拠点のうち4拠点が区内にあり、中心市街地とは河川によって繋がっている。

かけがえのない緑と幾筋の河川に囲まれた生物多様性豊かな自然環境が特徴。



<凡例>

緑の10大拠点



## ■現状 4（まちづくり）


二俣川駅南口の再開発や神奈川東部方面線の整備が進められ、旭区の交通便利性や魅力の向上が期待される。

旧上瀬谷通信施設の土地利用や鶴ヶ峰駅周辺の相鉄本線の地下方式による連続立体交差化とそれに伴う周辺の再整備など、今後も大規模なまちづくりが控えている。



### <凡例>

 鉄道（整備中）

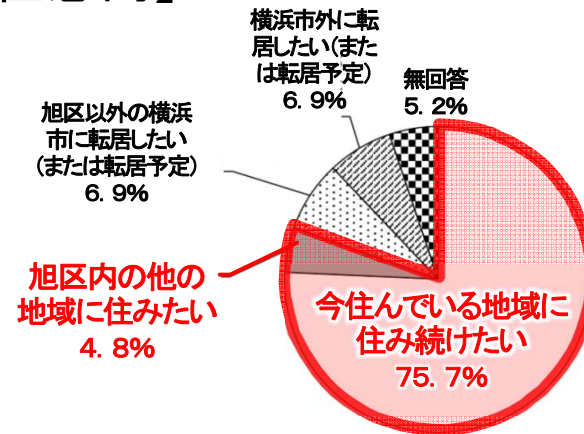
 鉄道（連続立体交差化）

# 課題

区民意識調査によると区内への定住意向が8割と高いものの、地域によっては「交通の便が悪い」「買い物がしにくい」など、日常生活を送るにあたっての課題がある。

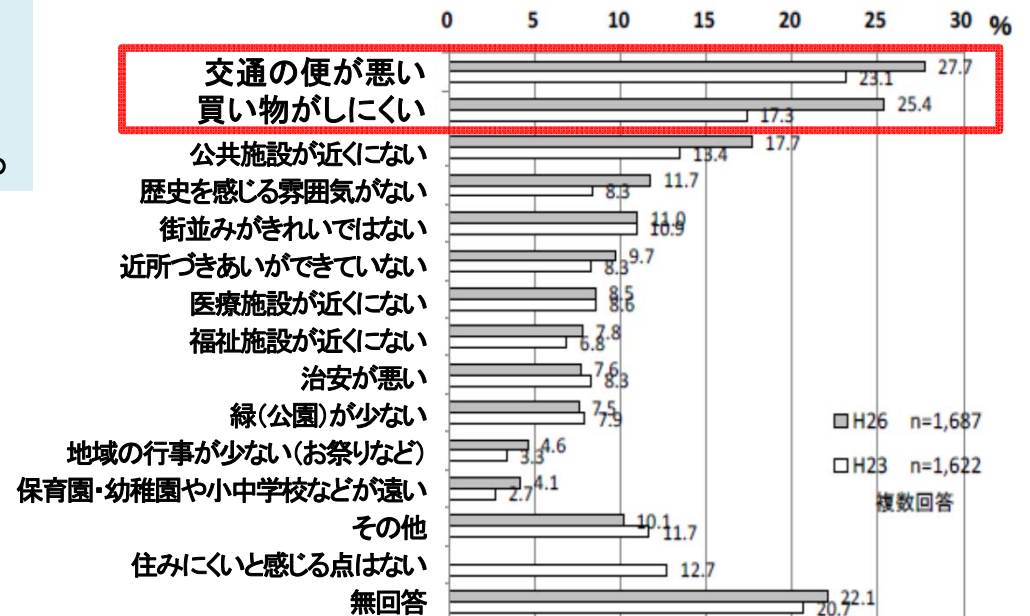
旭区では既に人口減少が始まっており、少子高齢化に伴う郊外部の活力低下や都市インフラの老朽化も指摘されている。

## 【定住意向】



## 【住みにくさ】

### 平成26年度 旭区区民意識調査

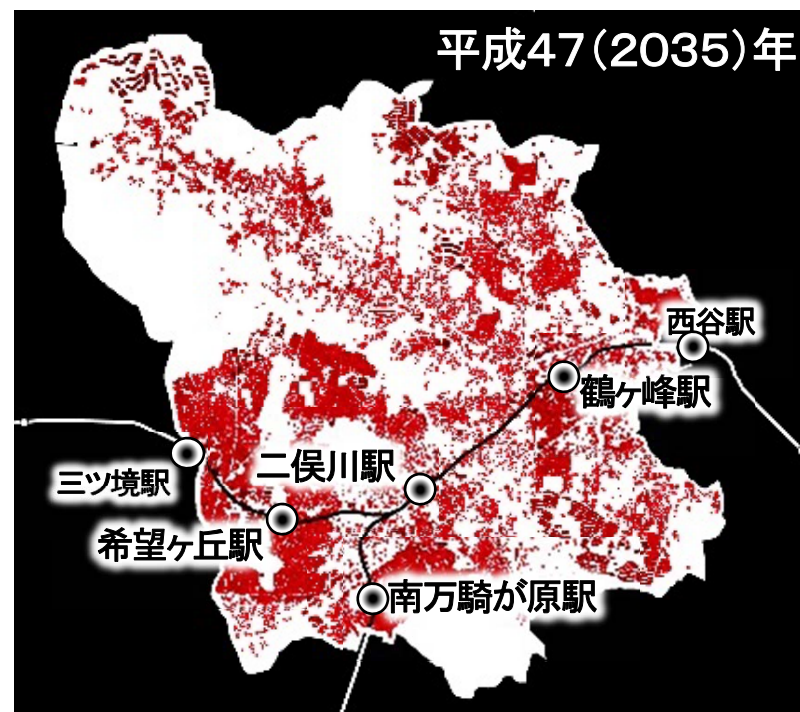
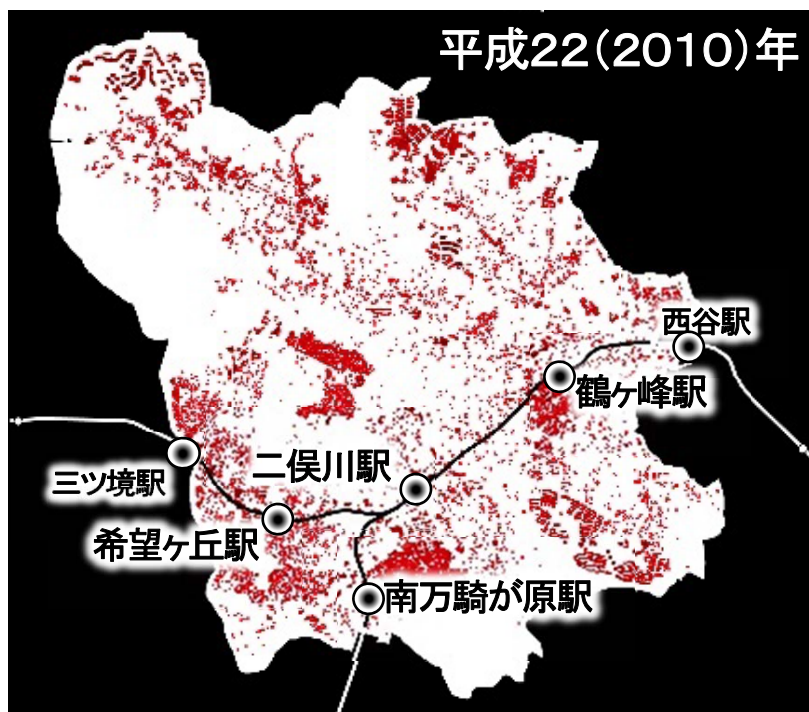


# ■分野別の主な課題 1

## 【土地利用】

高齢化の進行により、住み慣れた場所での日常生活に支障が出ないよう、住環境の向上に向けて、地域特性に応じた柔軟な土地利用を図る必要がある。

後期高齢者(75歳以上)の分布 ※一人一人を小さな赤点(・)で示したものの



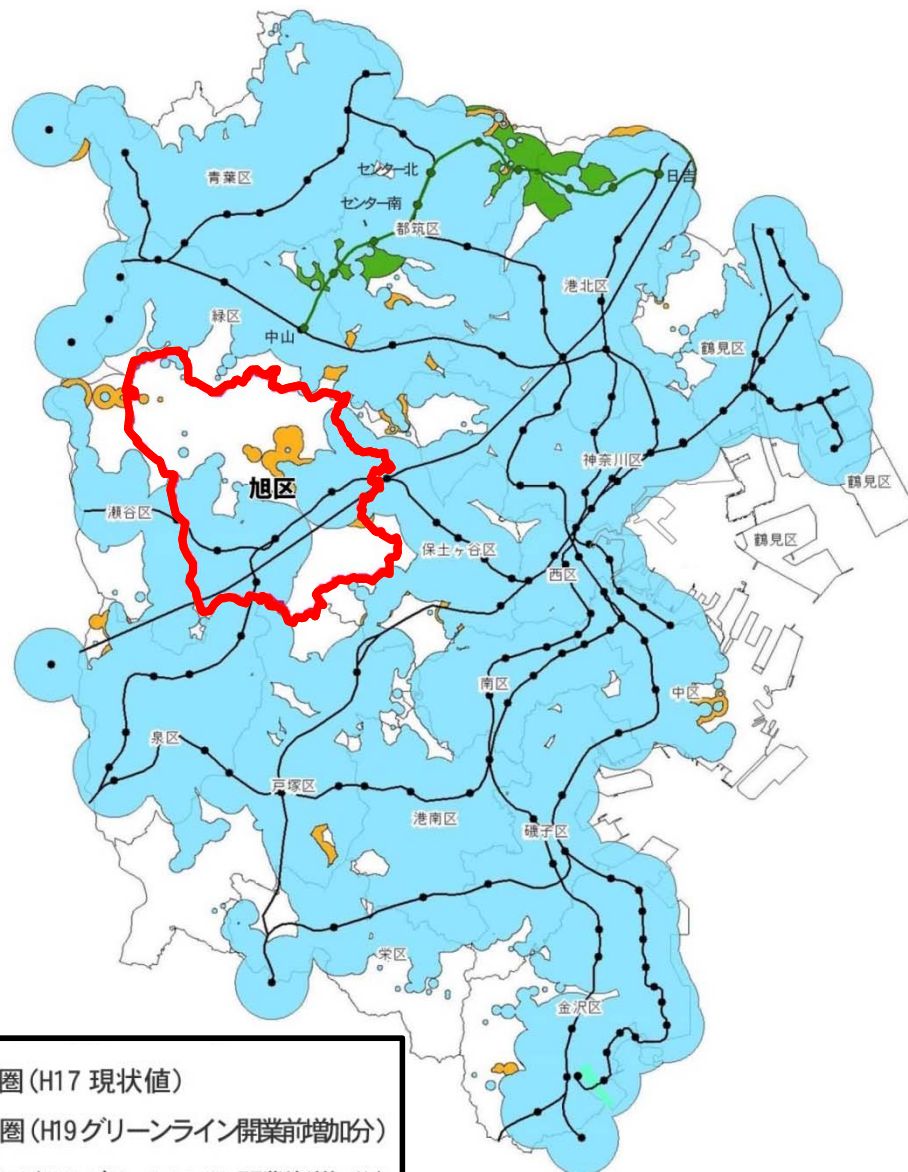


## ■分野別の主な課題 2

### 【交通】

道路ネットワークが脆弱なことから、交通が不便な地域が多く、慢性的な交通渋滞の発生や、区民の外出の機会が減少しているため、交通ネットワークの強化が必要。

最寄り駅までおおむね15分で到達できるエリア



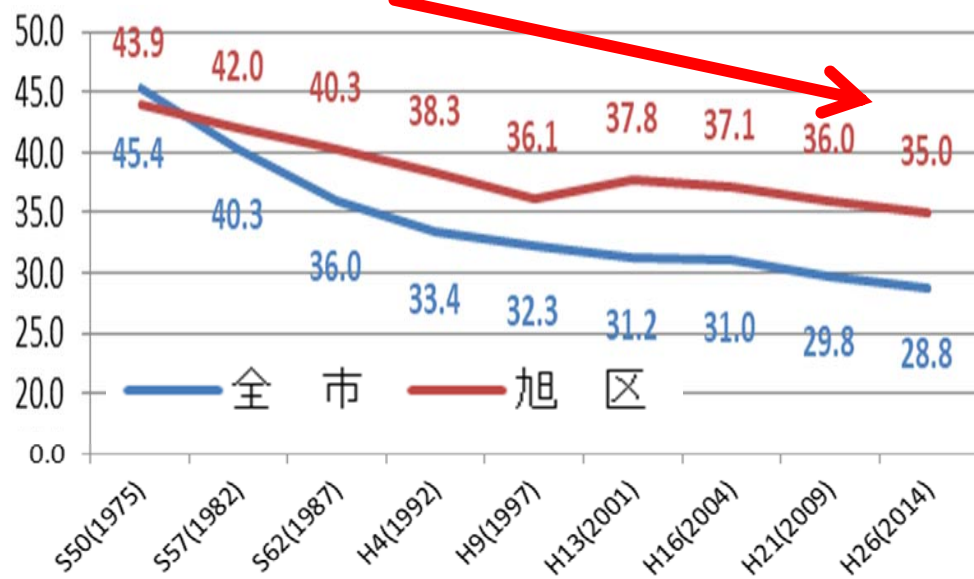
# 分野別の主な課題 3

## 【環境】

まとまった緑は保全が進められているものの、市街地に緑が少なく、農地や樹林地は減少傾向にある。

健全な水環境を維持するためにも、緑のさらなる保全が必要。

### 緑被率の推移



### 緑被分布の現況



### <凡例>

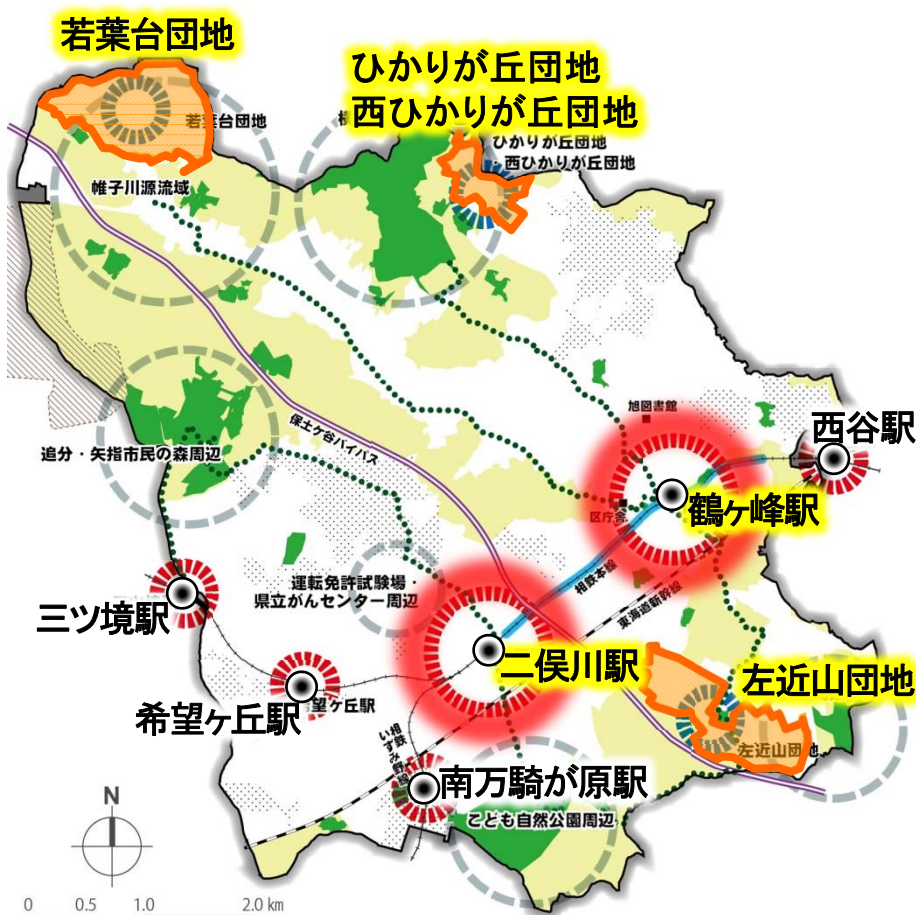
- 草地
- 樹林地
- 農地

## ■分野別の主な課題 4

### 【魅力・活力】

鶴ヶ峰・二俣川駅は、主要な生活拠点として機能を強化させ、魅力を向上させることが必要。

また、大規模団地の活性化を図り、持続可能なコミュニティを形成していく必要がある。



### <凡例>



主要な生活拠点・  
駅周辺の生活拠点



主な大規模団地



大規模団地の生活拠点



## ■分野別の主な課題 5

### 【防災・防犯】

被害を想定している巨大地震や大雨による浸水被害など自然災害に対する備えが必要。

また、地域における意識向上を図り、自助・共助による防災・防犯体制の構築が必要。

### 元禄型関東地震 震度階予測



#### <凡例>

震度5弱

震度6弱

震度5強

震度6強

## ■ 目指す将来像

いつまでも住み続けたいまち  
～安心・健やか・ふるさと 旭～

### 5つの方針

安心	安心して安全に暮らせるまち	→ 防災と防犯の方針
健やか	誰もが快適に移動できるまち	→ 交通の方針
	生き生きと活動し、交流できるまち	→ 魅力と活力の方針
ふるさと	いつまでも住み続けられるまち	→ 土地利用の方針
	豊かな自然と身近にふれあえるまち	→ 環境の方針

# ■まちづくりの方針

1 土地利用の方針

2 交通の方針

3 環境の方針

4 魅力と活力の方針

5 防災と防犯の方針

# ■土地利用の方針 1

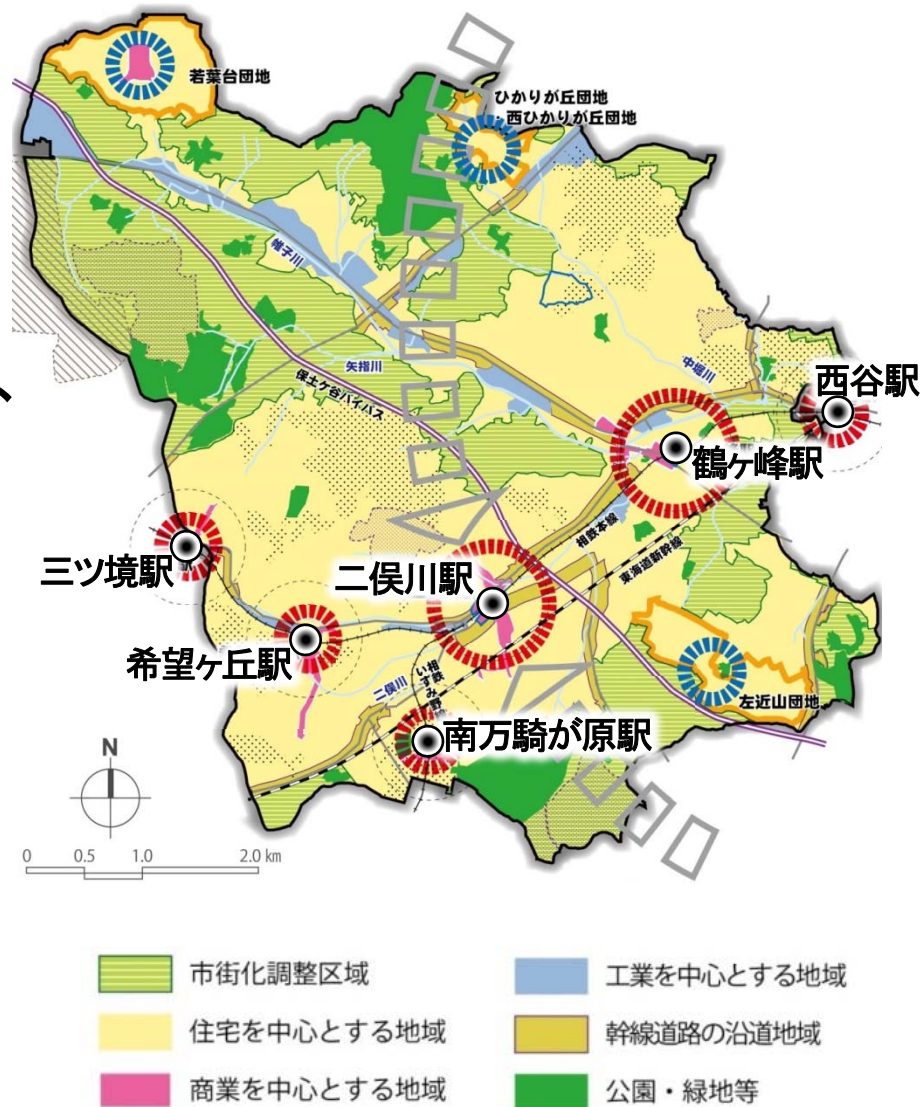
いつまでも住み続けられる  
まちづくり

## ●市街化区域

まちづくりのルールを活用や都市計画の変更も視野に入れながら、バランスのとれた市街地を形成し、適切な住環境を維持します。

## ●市街化調整区域

農地・樹林地の保全を基本とし、周辺環境を維持しますが、横浜環状鉄道の具体化に合わせた沿線まちづくりなど、必要に応じて土地利用を見直します。



## ■土地利用の方針 2

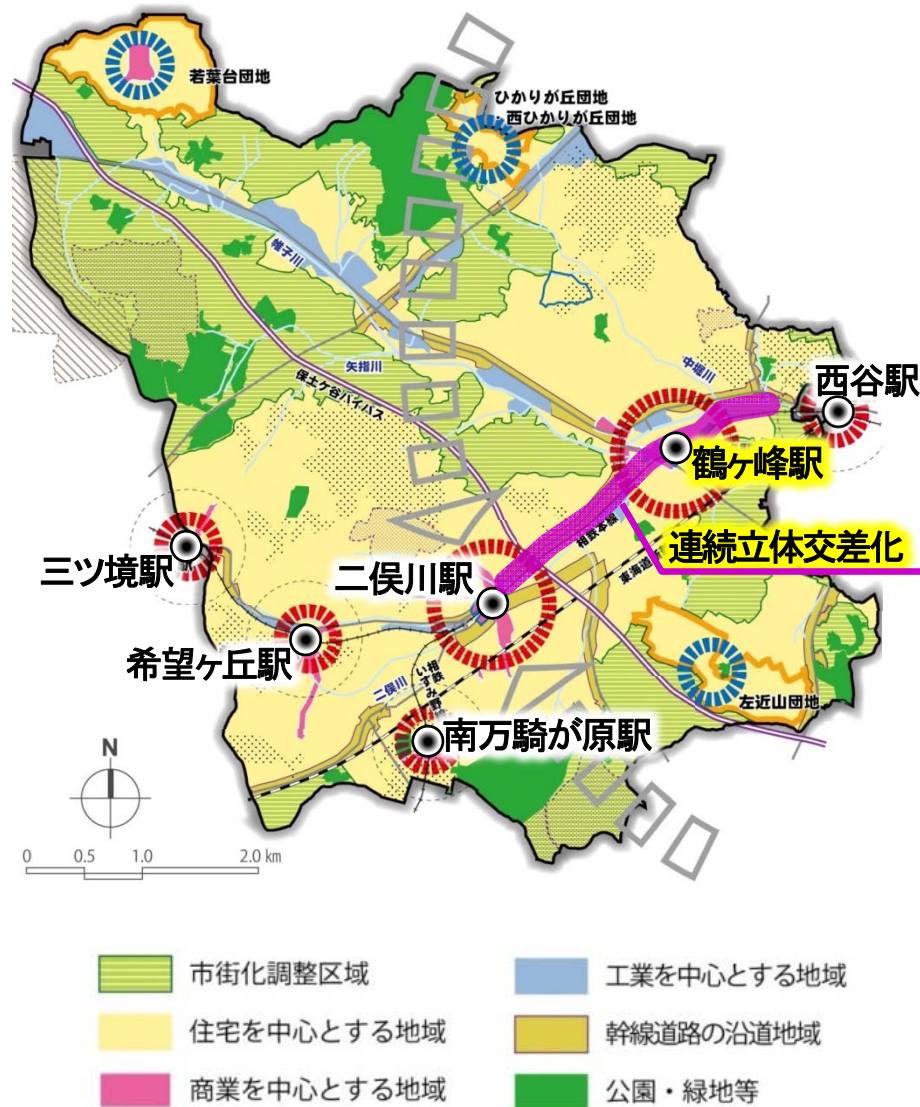
いつまでも住み続けられる  
まちづくり

### ●鉄道駅周辺

周辺地域の実情や課題を踏まえて、通勤・通学を含む日常生活の利便性向上に寄与するような土地利用を図ります。

### (例)鶴ヶ峰駅北口周辺

駅周辺の連続立体交差化と連動・連携しながら、地域と共に検討し、鉄道敷地を含め、区民の利便性向上に寄与する都市基盤整備や土地の高度利用を図ります。





# ■土地利用の方針 3

いつまでも住み続けられる  
まちづくり

## ●大規模な土地利用

十分な配慮のもと、周辺地域にも  
寄与する計画となるよう誘導します。

### (例)旧上瀬谷通信施設

緑や農の保全とのバランスを図り  
ながら、全市的・広域的な課題へ  
の対応を考慮した土地利用の具体  
化を図ります。





# 交通の方針 1

誰もが快適に移動できる  
まちづくり

## ●公共交通ネットワークの強化

横浜環状鉄道の推進やバス路線の拡充と利便性の向上を図るとともに、地域に適した新たな交通手段の導入・支援を行います。



- 幹線道路 (既存)
- 幹線道路 (整備予定※)
- 幹線道路 (計画等)
- 主要な地域道路 (既存・幅員 7m以上)
- 主要な地域道路 (計画等)
- 自動車専用道路 (既存)

※整備予定=事業に着手した路線

- 鉄道・駅 (既存)  
駅から半径 500m圏
- 鉄道 (整備中)
- 鉄道 (計画路線)
- 鉄道 (連続立体交差化)

- バス路線・バス停  
から半径 200m圏  
コミュニティバス  
(四季めぐり号)
- 要改良交差点・踏切
- 市街化調整区域
- 河川等

# 交通の方針 2

誰もが快適に移動できる  
まちづくり

- **交通環境の改善**  
交差点の改良や踏切の除却などを進め、交通環境を改善します。
- **道路ネットワークの強化**
- **歩行者空間の確保**



<ul style="list-style-type: none"> <li>— 幹線道路 (既存)</li> <li>- - - 幹線道路 (整備予定※)</li> <li>⋯ 幹線道路 (計画等)</li> <li>— 主要な地域道路 (既存・幅員 7m以上)</li> <li>⋯ 主要な地域道路 (計画等)</li> <li>— 自動車専用道路 (既存)</li> </ul>	<p>都市計画道路</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鉄道・駅 (既存) 駅から半径 500m 圏</li> <li>➡ 鉄道 (整備中)</li> <li>□ □ □ □ 鉄道 (計画路線)</li> <li>● 鉄道 (連続立体交差化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バス路線・バス停から半径 200m 圏</li> <li>○ コミュニティバス (四季めぐり号)</li> <li>⊗ 要改良交差点・踏切</li> <li>市街化調整区域</li> </ul>
--	---------------	---	--

※整備予定=事業に着手した路線

# ■環境の方針

豊かな自然と身近にふれあえる  
まちづくり

## ●緑の保全と創出

多彩な緑環境を保全し、点在する緑地や河川などの環境資源を有機的に結び、多くの人々が緑に触れる機会を増やしていく取組を進めます。

## ●農的空間の活用

## ●生物多様性の保全

## ●地球温暖化対策の推進

## ●水環境の保全





# 魅力と活力の方針

生き生きと活動し、交流できる  
まちづくり

## ● 主要な生活拠点の機能強化

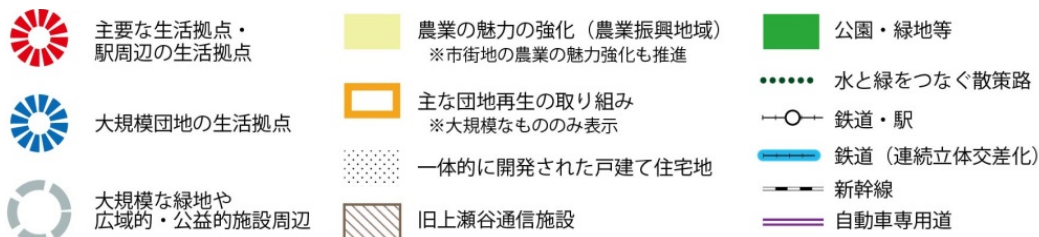
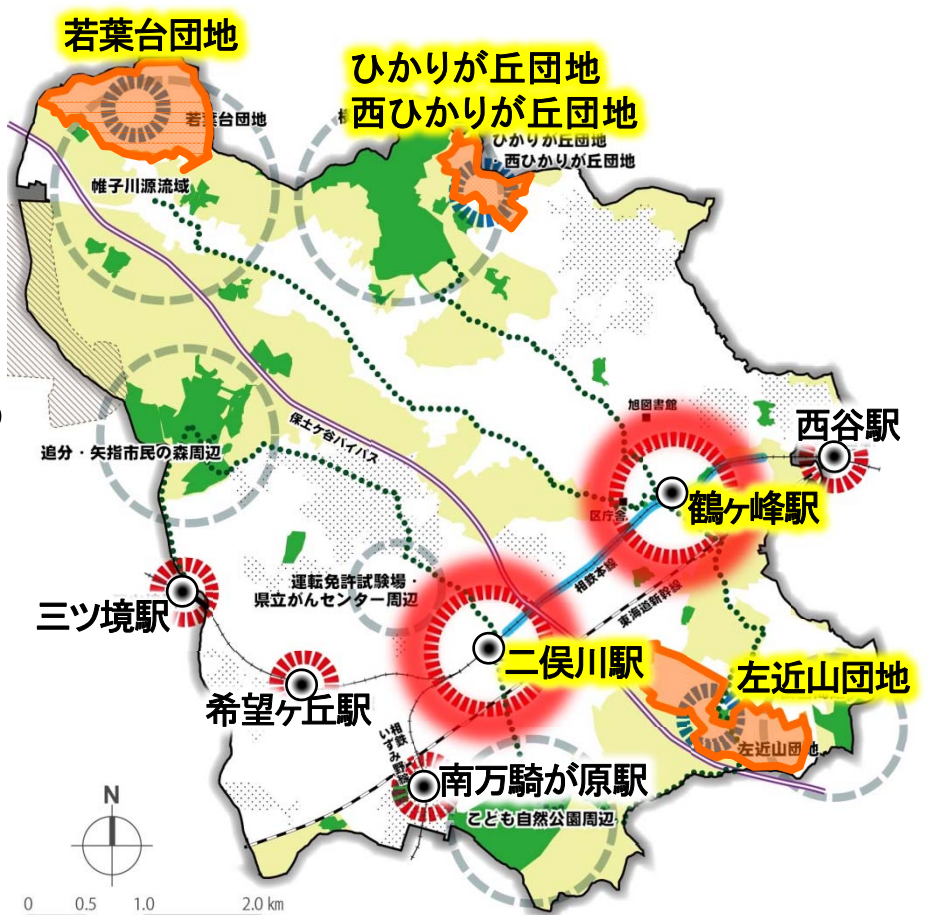
鶴ヶ峰駅、二俣川駅周辺において、  
区民の暮らしに必要な機能の再生や  
多様な都市機能の充実を図ります。

## ● 持続可能なコミュニティの形成

大規模団地をはじめとした郊外部  
の住宅地では、住みやすさの維持・  
向上、持続可能なコミュニティの形  
成などに向けた取組を進めます。

## ● 産業の活性化と雇用の創出

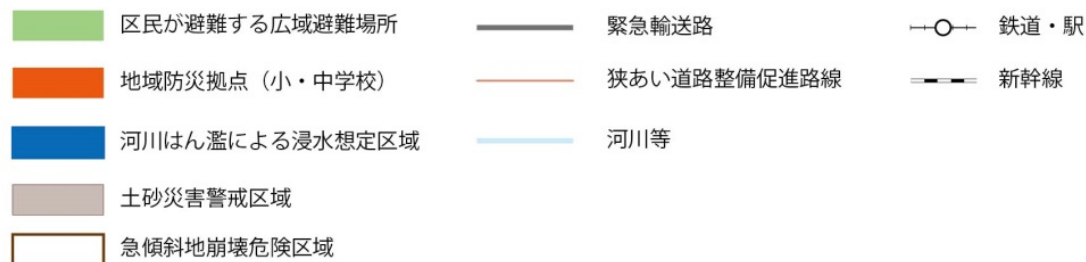
## ● 地域資源の活用



# ■防災と防犯の方針

安心して安全に暮らせる  
まちづくり

- 水害・土砂災害に強いまちづくり
- 地震に強いまちづくり
- 安心できる防災・防犯体制の構築
- 空家・空き地対策



# ■旭区内の魅力的な地域づくりや地域運営の事例 1

## 世代を超えたコミュニティの輪が広がる地域密着の「希望カフェ」 @中希望が丘地区

旭区在住の有志6名が、退職後の時間を地域の憩いの場づくりに有意義に活用したいと始めた取組。

区役所の補助金を活用して、「高齢者が街に出て楽しめる場」と「3世代交流の場」の2つのコンセプトを持つコミュニティカフェを開設。

カフェを通して、大人から子供へ、子供から大人へと交流の輪が広がっていることも大きな特徴。



希望が丘商店街の空き店舗を丸ごと活用



フラットと寄り道しやすい親近感のある  
つくり



## ■ 旭区内の魅力的な地域づくりや地域運営の事例 2

### 大規模団地のまちづくり

@ 若葉台団地、左近山団地、西ひかりが丘団地、ひかりが丘団地

横浜市内の大規模団地において、少子高齢化に伴う医療・介護・生活支援のニーズ増大などが顕在化。

この課題に対応するため、旭区内の4つの団地において、先行着手するモデル事業が平成29年度から開始。

団地ごとの地域資源を活用し、地域住民や事業者、大学、行政等が協働してまちづくりに取り組むため、ビジョンを共有し、持続可能なコミュニティづくりを推進。

このビジョンは、目指すまちの将来像とその実現に必要な取組を示すものとし、長期的なビジョンとソフトの取組を中心とした2025年問題を見据えた団地ごとのビジョンで構成。



若葉台団地



左近山団地



ひかりが丘団地



西ひかりが丘団地